

池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2024年度

2025年3月

池田市教育委員会

序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営みを始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベッドタウンとして開発が進み、大きく発展しました。しかしながら、このような開発・発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、昔の面影がしのぶことができないほど様が変わってしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

令和7年3月

池田市教育委員会
教育長 田渕 和明

例 言

1. 本書は、池田市教育委員会が令和6年度国庫補助事業（補助額1,000,000円 国50%）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は池田市教育委員会教育部生涯学習推進室社会教育課が実施し、中西正和・宇野真太郎が現地を担当した。
3. 本書の執筆・編集は中西・宇野が行なった。また、本書の製図・遺物実測にあたっては野村大作の協力を得た。
4. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修）による。
5. 調査実施にあたり、人力・機械掘削を株式会社中岡組（令和6年4月1日から令和6年6月30日）、安西工業株式会社大阪支店（令和6年7月1日から令和7年3月31日）に委託した。
6. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目 次

I. 五月山公園遺跡（第3次調査・第5次調査〈試掘〉）	1
II. 池田城跡第87次調査	8
III. 神田北遺跡（第27～28次調査）	10
IV. 宇保遺跡（第3～4次調査）	12
V. 豊島南遺跡（第12～13次調査）	14
VI. 試掘調査（掘削委託を伴わない調査）	21
①宮の前遺跡第24-1次調査	21
②池田城跡第24-2次調査	21
③神田北遺跡第24-3次調査	22
④豊島南遺跡第24-4次調査	22
⑤池田城跡第24-5次調査	23
⑥鼓が滝遺跡第24-6次調査	23
⑦宮の前遺跡第24-7次調査	24
報告書抄録	25

図 版

図版第1	a. 五月山公園遺跡第3次調査第1トレンチ全景（北西から）
	b. 五月山公園遺跡第3次調査第5トレンチ全景（南東から）
	c. 五月山公園遺跡第3次調査第4トレンチ全景（南西から）
図版第2	a. 五月山公園遺跡第3次調査第2トレンチ全景（北東から）
	b. 五月山公園遺跡第5次調査（試掘）第1トレンチ土層堆積状況（北から）
図版第3	a. 五月山公園遺跡出土遺物（1）1～4
	b. 五月山公園遺跡出土遺物（2）5

図版第 4	五月山公園遺跡出土遺物（3） 6～15
図版第 5	a. 池田城跡第 87 次調査第 1 トレンチ全景（南東から） b. 池田城跡第 87 次調査第 2 トレンチ全景（北東から）
図版第 6	a. 池田城跡第 87 次調査第 3 トレンチ全景（南東から） b. 池田城跡第 87 次調査第 4 トレンチ全景（南東から）
図版第 7	a. 神田北遺跡第 28 次調査第 1 トレンチ土層堆積状況（北東から） b. 神田北遺跡第 28 次調査第 2 トレンチ土層堆積状況（西から）
図版第 8	a. 宇保遺跡第 3 次調査土層堆積状況（北西から） b. 宇保遺跡第 4 次調査トレンチ全景（南から）
図版第 9	a. 豊島南遺跡第 12 次調査土層堆積状況（南西から） b. 豊島南遺跡第 13 次調査第 1 トレンチ土層堆積状況（南西から） c. 豊島南遺跡第 13 次調査第 2 トレンチ土層堆積状況（北東から）
図版第 10	豊島南遺跡出土遺物（1） 1～7、9～11
図版第 11	豊島南遺跡出土遺物（2） 12～18、20
図版第 12	a. 豊島南遺跡出土遺物（3） 8 b. 豊島南遺跡出土遺物（4） 19

挿 図 ・ 表 目 次

第 1 図 遺跡分布図

I. 五月山公園遺跡（第 3 次調査・第 5 次調査〈試掘〉）

第 2 図	調査地位置図（1/8000）	1
第 3 図	第 3 次調査トレンチ位置図（1/500）	1
第 4 図	第 3 次調査土層断面図（1/50）	2
第 5 図	第 5 次調査試掘トレンチ位置図（1/500）	2
第 6 図	第 5 次調査試掘トレンチ平面図・土層断面図（1/50）	3
第 7 図	第 3 次調査出土遺物実測図（1/3）	5
第 1 表	第 3 次調査出土遺物観察表	7

II. 池田城跡第 87 次調査

第 8 図	調査地位置図（1/10000）	8
第 9 図	トレンチ位置図（1/500）	8
第 10 図	土層断面図（1/40）	9

III. 神田北遺跡第（第 27～28 次調査）

第 11 図	調査地位置図（1/5000）	10
第 12 図	第 27 次調査トレンチ位置図（1/400）	10
第 13 図	第 28 次調査トレンチ位置図（1/600）	10
第 14 図	第 28 次調査土層断面図（1/50）	11

IV. 宇保遺跡（第3～4次調査）

第15図 調査地位置図（1/2500）	12
第16図 トレンチ位置図（1/500）	12
第17図 土層断面図（1/40）	13

V. 豊島南遺跡（第12～13次調査）

第18図 調査地位置図（1/5000）	14
第19図 第12次調査トレンチ位置図（1/500）	14
第20図 第13次調査トレンチ位置図（1/800）	14
第21図 第12次調査土層断面図（1/40）	15
第22図 第13次調査土層断面図（1/40）	15
第23図 第12次調査出土弥生土器実測図（1/3）	16
第24図 第12次調査出土須恵器実測図（1/3）	17
第25図 第12次調査出土竈実測図（1/3）	18
第2表 第12次調査出土遺物観察表	20

VI. 試掘調査（掘削委託を伴わない調査）

①宮の前遺跡第24-1次調査

第26図 調査地位置図	21
第27図 トレンチ位置図	21
第28図 第1トレンチ掘削状況	21
第29図 第2トレンチ掘削状況	21

②池田城跡第24-2次調査

第30図 調査地位置図	21
第31図 トレンチ位置図	21
第32図 掘削状況	21

③神田北遺跡第24-3次調査

第33図 調査地位置図	22
第34図 トレンチ位置図	22

④豊島南遺跡第24-4次調査

第35図 調査地位置図	22
第36図 トレンチ位置図	22
第37図 掘削状況	22

⑤池田城跡第24-5次調査

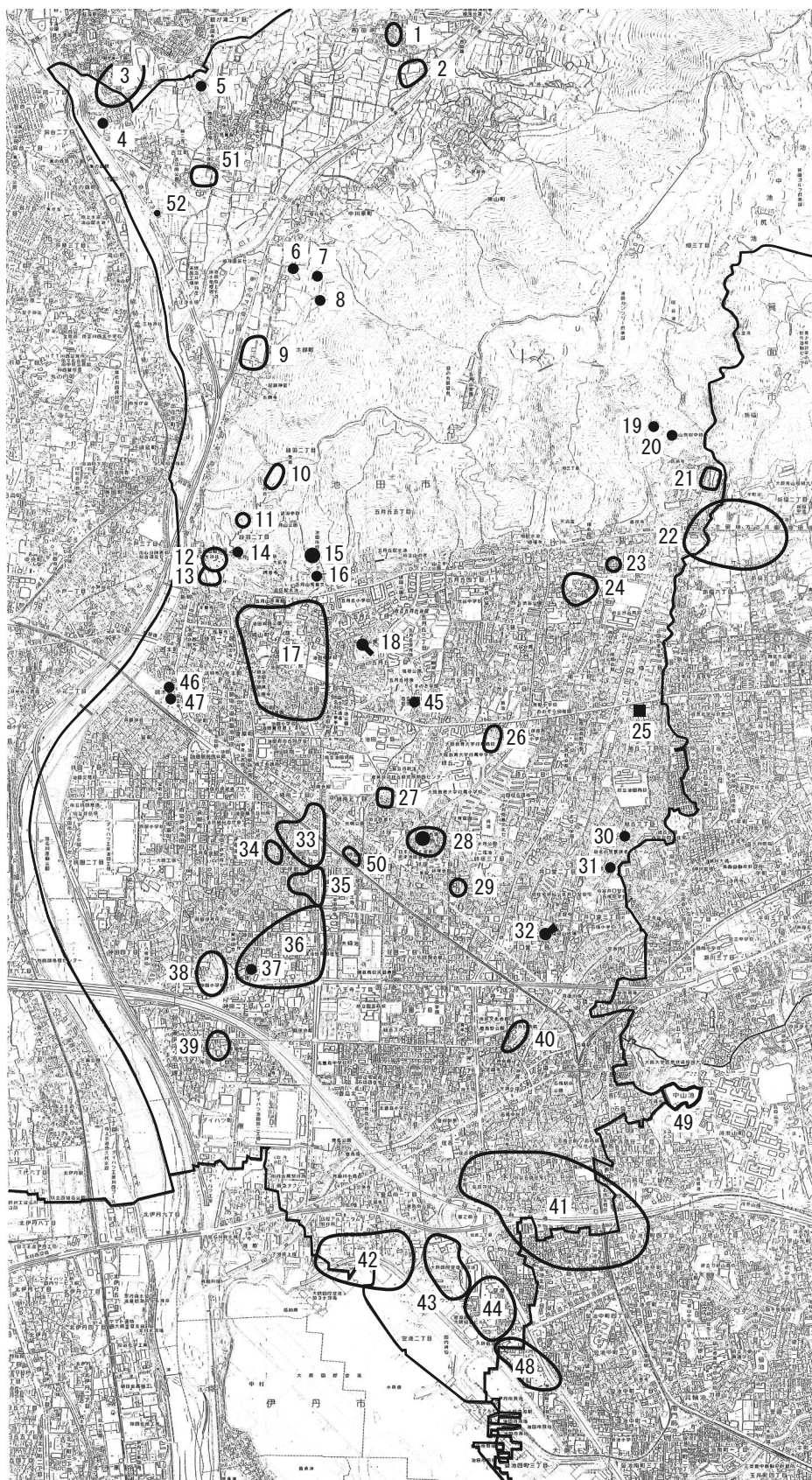
第38図 調査地位置図	23
第39図 トレンチ位置図	23
第40図 第1トレンチ掘削状況	23
第41図 第2トレンチ掘削状況	23

⑥鼓が滝遺跡第24-6次調査

第42図 調査地位置図	23
第43図 第1トレンチ掘削状況	23
第44図 第2トレンチ掘削状況	23

⑦宮の前遺跡第24-7次調査

第45図 調査地位置図	24
第46図 トレンチ位置図	24
第47図 第1トレンチ掘削状況	24
第48図 第2トレンチ掘削状況	24



- 1 吉田古銭出土地
- 2 吉田遺跡
- 3 鼓ヶ滝遺跡
- 4 古江古墳
- 5 古江北古墳
- 6 木部1号墳
- 7 木部2号墳
- 8 木部桃山古墳
- 9 木部遺跡
- 10 愛宕神社遺跡
- 11 遺物散布地
- 12 五月山公園遺跡
- 13 伊居太神社参道遺跡
- 14 紅葉古墳
- 15 娛三堂古墳
- 16 娛三堂南古墳
- 17 池田城跡
- 18 池田茶臼山古墳
- 19 善海1号墳
- 20 善海2号墳
- 21 石積廃寺
- 22 新稲西遺跡
- 23 畑有舌尖頭器出土地
- 24 京中遺跡
- 25 野田塚古墳
- 26 夏湖池遺跡
- 27 鉢塚北遺跡
- 28 鉢塚古墳・鉢塚遺跡
- 29 鉢塚南遺跡
- 30 狐塚古墳
- 31 石橋古墳
- 32 二子塚古墳
- 33 禅城寺遺跡
- 34 宇保猪名津彦神社古墳
- 35 宇保遺跡
- 36 神田北遺跡
- 37 脇塚古墳
- 38 門田遺跡
- 39 神田南遺跡
- 40 天神遺跡
- 41 宮の前遺跡
- 42 豊島南遺跡
- 43 住吉宮の前遺跡
- 44 宮の前西遺跡
- 45 五月ヶ丘古墳
- 46 姫室
- 47 梅室
- 48 蛭ヶ池西遺跡
- 49 待兼山遺跡
- 50 柳原遺跡
- 51 古江遺跡
- 52 古江石匙出土地

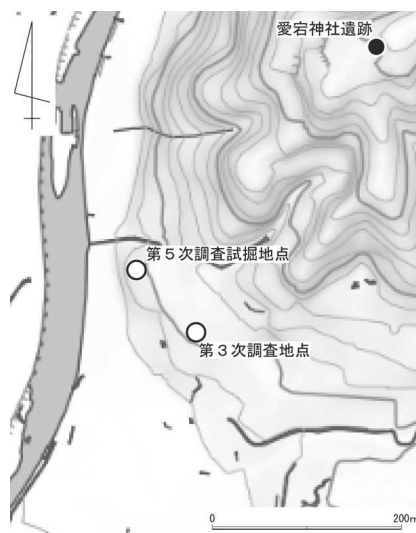
第1図 遺跡分布図

I. 五月山公園遺跡 (第3次調査・第5次調査〈試掘〉)

1. 遺跡の概要 (第1～2図)

五月山公園遺跡は、五月山南麓に所在する弥生時代の遺跡で、猪名川左岸の段丘上に位置する。この段丘上は、遺跡南側ではナイフ形石器・石鏃などが表採された伊居太神社参道遺跡があり、東側には横穴式石室墳である紅葉古墳が位置している。また、五月山頂上付近には畿内第Ⅴ様式に相当する土器が表採された愛宕神社遺跡がある。このように当該遺跡周辺は旧石器時代から古墳時代まで、人々の活動を窺うことができる重要な場所といえる。

昭和35年に五月山公園所在の忠魂碑裏での道路工事の際、弥生土器が発見されたことで遺跡の存在が明らかとなった(富田1997)。その後、しばらく発掘調査を行うことはなかったが、平成16年、公園内のトイレ建設に伴う調査では弥生時代の竪穴建物跡を検出でき、集落跡であることが明らかとなった。しかし、より具体的な遺跡の規模・性格は詳らかでない。



第2図 調査地位置図 (1/8000)
国土地理院地図ウェブサイトより転載
(<https://maps.gsi.go.jp/vector/#14.367/34.826075/135.428309&ls=hillshade1%2C0.3%7Cvpale2&disp=11&d=1>)

2. 第3次調査の概要 (図版第1～2a、第2～4図)

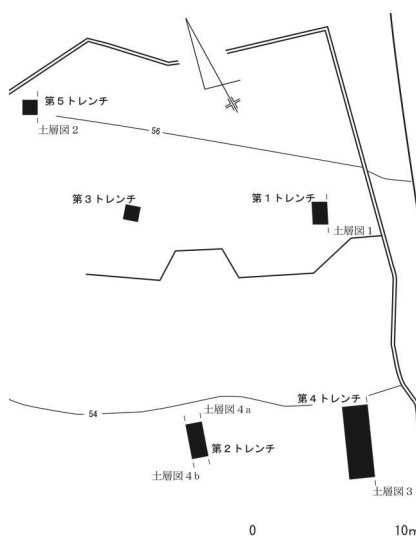
調査地は伊居太神社の参道東側にあたり、五月山動物園改修工事に先立ち確認調査を実施し、トレンチを5つ設定した。調査面積は合計20㎡である。

(1) 第1・3・5トレンチ (図版第1、第3～4図)

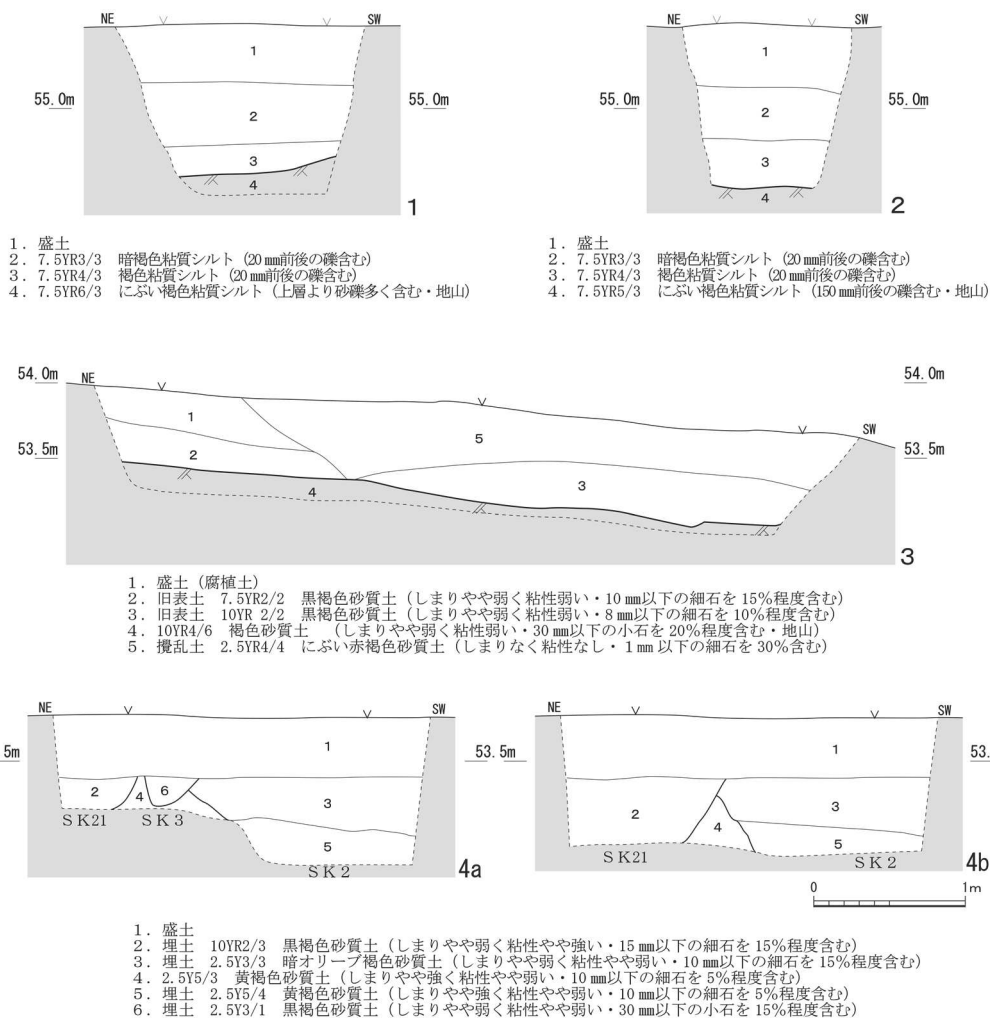
第1トレンチは調査地の北東部に長さ1.4m、幅1mで設定したものである。土層堆積状況は現代盛土層(第1層)直下に無遺物層(第2・3層)を確認し、さらにその下では全面で地山(第4層)を確認した。

第3トレンチは第1トレンチの西側に長さ1m、幅1mで設定した。土層堆積状況は現代の攪乱土層のみが確認できた。

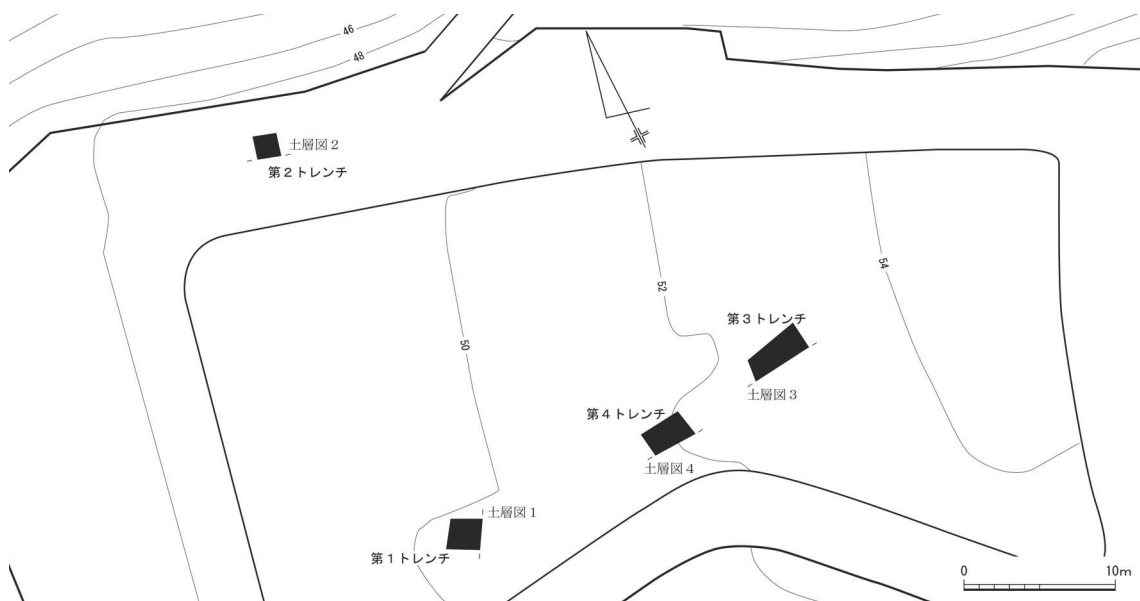
第5トレンチは調査地の最も北側に長さ1m、幅1mで設定した。土層堆積状況は第1トレンチと同様で



第3図 第3次調査トレンチ位置図
(1/500)



第4図 第3次調査土層断面図 (1/50)



第5図 第5次調査試掘トレンチ位置図 (1/500)

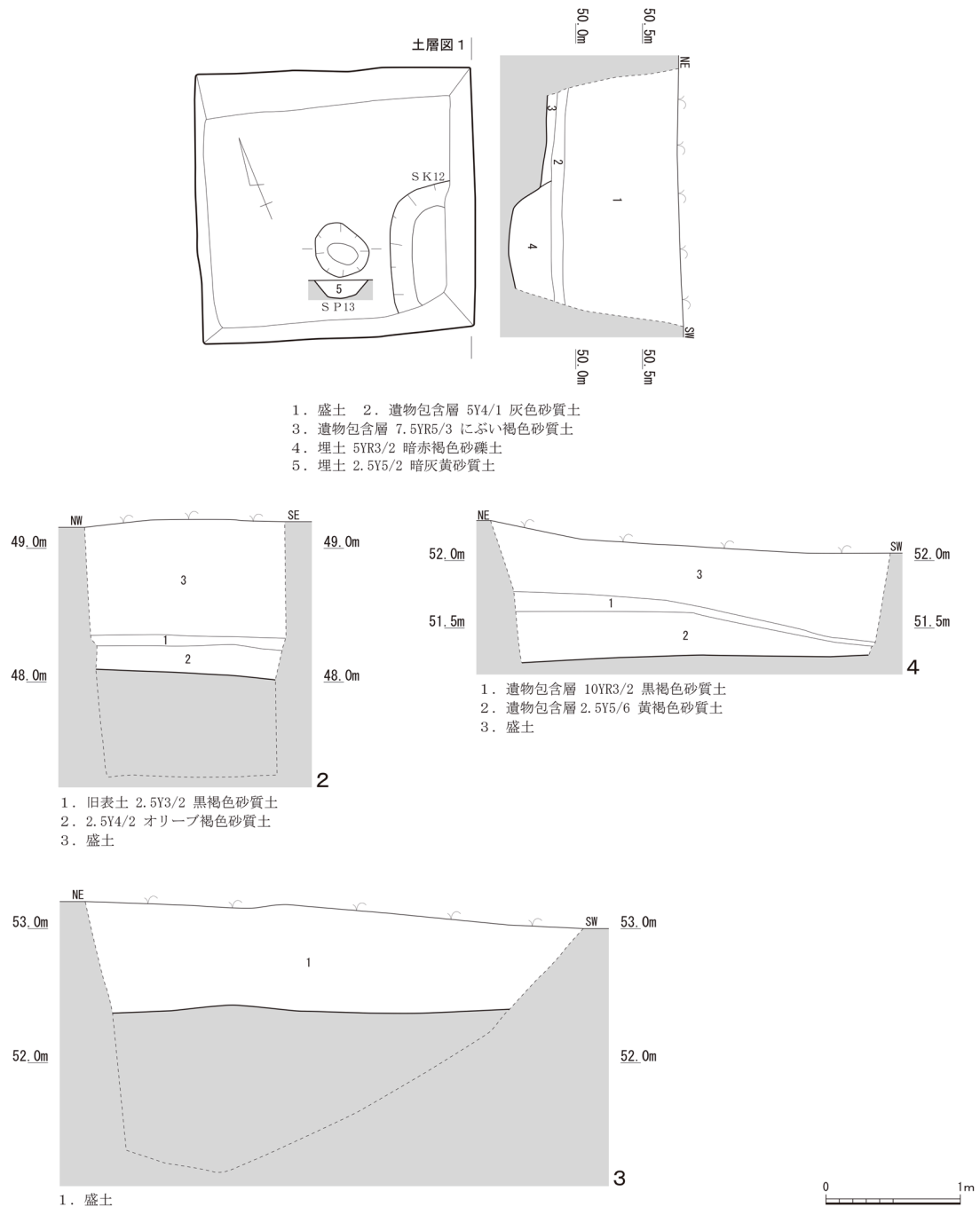
あった。

(2) 第4トレンチ (図版第1c、第3～4図)

第4トレンチは調査地の最も南東側に位置し、長さ5m、幅1.5mの範囲で設定したものである。土層堆積状況は現代盛土層(第1層)、表土からの攪乱土層(第5層)の直下に旧表土層(第2・3層)が堆積し、その下は全面地山(第4層)である。

(3) 第2トレンチ (図版第2a、第3～4図)

第2トレンチは第4トレンチの西側に長さ2.5m、幅1mの範囲で設定した。土層堆積状



第6図 第5次調査試掘トレンチ平面図・土層断面図 (1/50)

況は、現代盛土層（第1層）の直下で、検出した土坑の埋土層（第2・3・5・6層）、弥生時代の遺物包含層（第4層）を確認した。その下は全面地山であった。

検出した土坑は3基（SK2・3・21）で、断面の切り合いからSK3・21はSK2よりも新しい。

3. 第5次調査（試掘）の概要（図版第2b、第2・5～6図）

調査地は伊居太神社境内の北側に位置する。当該箇所は既存の包蔵地（五月山公園遺跡・伊居太神社参道遺跡）と同一段丘上にあるが、五月山動物園が開園していたため周知の埋蔵文化財包蔵地外となっており、遺構・遺物の存在は不明であった。今回、五月山動物園の改修工事が予定されたことをきっかけに協議を行った。その結果、既存建物の解体を待ち、遺跡の範囲確認を目的とした試掘調査を10月17日から10月18日まで2日間実施することとなった。

トレンチ設定については、まず園内建物などによる影響や造成時の影響が軽微と予想できる箇所に第1トレンチを設定した。そこで弥生時代の遺構面を確認することができたため、その範囲を知るべく段丘北端付近に第2トレンチを設定した。10月18日には北東から南西にむけて緩やかに傾斜する地形を考慮し、第1トレンチの北東側に第3・4トレンチを設定した。その結果、第4トレンチで弥生時代の遺物包含層を確認した。これらのトレンチ面積は合計で16.75 m²である。

（1）土層堆積状況（図版第2b、第5～6図）

第1・4トレンチの土層堆積状況は、現代盛土層の下で近世後半から近代の遺物を含む包含層（第6図1：第2層、4：第1層）が堆積し、さらにその下では弥生土器を含む包含層（第6図1：第3層、4：第2層）が堆積している。遺物包含層の下では全面で地山を確認した。第2・3トレンチでは現代盛土層の下で地山を確認した。

（2）検出遺構（図版第2b、第5～6図）

遺構は第1トレンチでのみ検出し、トレンチ南東部で土坑（SK12）及びピット（SP13）を確認した。また包含層の堆積状況からは、北東から土砂が流れ込んだことが想定でき、より多くの遺構が当該調査地北東部に集中している可能性がある。

SK12 第1トレンチ南東隅で検出した土坑である。弥生土器を少量含む包含層（第3層）から掘り込んでおり、埋土（第4層）の厚さは上面から30cm程である。埋土からは多くの弥生土器が出土した。

SP13 SK12の西側で検出した直径45cmほどの不定円形のピットである。地山から掘り込まれており、埋土（第5層）の厚さは上面から15cm程である。埋土からは少量の弥生土器が出土した。

4. 出土遺物について（図版第3～4、第7図、第1表）

第3次調査では弥生土器片が破片数にして100点あまり出土し、甕・高坏・直口壺などの

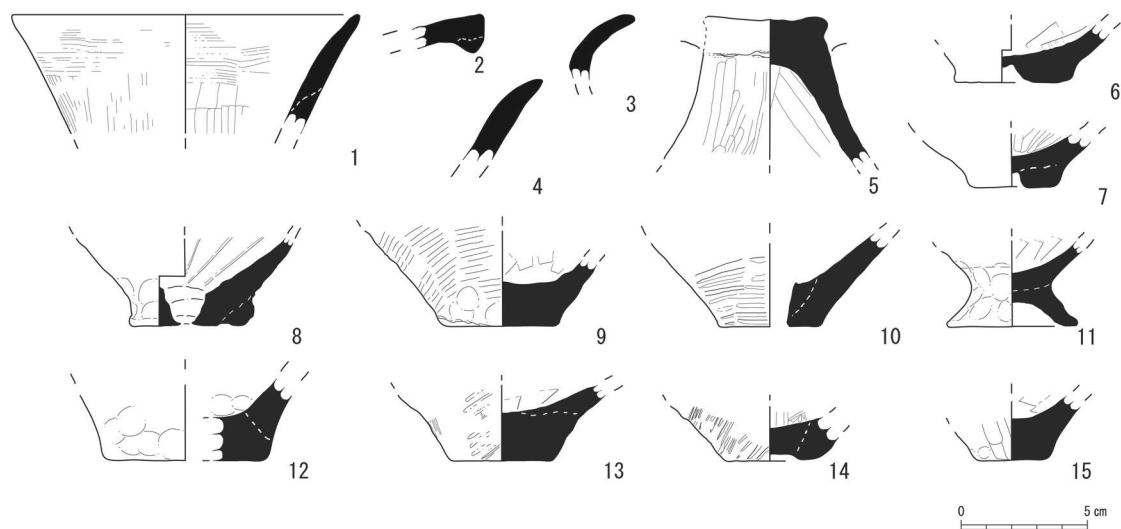
器種がある。小片で磨滅しているものが多く、調整などの残存状況が良好なものは少ないため、このうち図化できた 15 点を掲載した。

1 は直口壺の口縁部片である。直線的に外傾し、口縁端部は丸く収める。外面にはタテハケを施した後、口縁上部にヨコハケを施す。内面には板ナデを施し、その後口縁上部にヨコハケを施す。胎土はやや密で 1 mm 以下の白色鉱物・石英を含み焼成は良好である。

2 は広口壺の口縁部片である。残存率が 1/8 を下回るため、口径は復元できない。口縁端部の下方に粘土帯を付加して拡張している。胎土はやや密で 2 mm 以下の白色・黒色鉱物を含み、焼成は良好である。口縁端部に黒斑が確認できる。

3・4 は甕の口縁部片である。残存率が 1/8 を下回るため、口径は復元できない。3 は口縁端部を丸く収め、頸部の屈曲箇所が丸くなっている。胎土はやや密で 2 mm 以下の白色鉱物を含み、焼成は良好である。4 は口縁端部を先細り気味に丸く収め、内外面ともにナデが確認できる。胎土はやや粗で 4 mm 以下の白色・無色鉱物を含み、焼成は良好である。また、内面は部分的に黒い。

6～7・9・12～15 は甕の底部片である。底部裏面の形状によって大別でき、6～7・14 は中央付近が凹む底、9・12～13・15 は平底である。6 は外面にタタキを施した後にナデを行っているためタタキ痕跡は不明瞭である。そして、オサエにより底部の形状を整えている。内面には時計回りに板ナデを断続的に施す。また、凹み内には半球状の凸部があることから底部成形時にできる穴を成形後に粘土で充填したことが窺える。胎土はやや密で 2 mm 程の白色鉱物を含み、焼成は良好で、黒斑が確認できる。7 は外面にナデが確認でき、内面はミガキを施す。凹み内には半球状の凸部が確認できない。胎土はやや密で 1 mm 程の白色鉱物を含み、焼成は良好である。また、内面は黒い。14 は外面に右肩上がりのタタキ痕跡が確認でき、内面にはハケ後板ナデを施す。また、凹み内にナデを行っているため半球状の凸部は不明瞭であるが、6 と同様に成形後に粘土を充填したと想定できる。胎土はやや密で



第 7 図 第 3 次調査出土遺物実測図 (1/3)

3mm以下の無色・白色・黒色鉱物を含み、焼成は良好で底部裏面に黒斑が確認できる。9は外面に右肩上がりのタタキ痕跡が確認でき、底部の接地面際にオサエを施すことで形状を整えている。内面には下から上へ板ナデを施す。底部裏面には靱圧痕が確認できる。胎土はやや粗で2mm程の無色・白色鉱物を含み焼成は良好で、内面は黒い。12は内外面にオサエを施す。また底部裏面にもオサエが確認できる。胎土はやや密で1mm程の白色鉱物を含み、焼成は良好である。13は外面にタタキ後ハケ・ナデを施す。タタキの痕跡は右肩上がりである。内面には反時計回りに板ナデを施すが、乱雑である。胎土はやや粗で2mm程の無色・白色鉱物を含み、焼成は良好で、内面は黒い。15は外面にミガキを施し、底部接地面際にオサエを施す。内面には下から上へ板ナデを施す。胎土は密で2mm以下の白色鉱物を含む。焼成は良好で、黒斑が確認できる。

5は高坏で脚部の上半部が残存している。脚部孔は貫通していない。上端部は外側に若干広がっており、上面には上から強く接着させた痕跡が確認できる。上端側面には灰白色の焼成痕跡があり、その下端には粘土の貼り付け痕跡が確認できる。よって、別に製作した坏部に脚部を食い込ませ、その周囲を粘土で補強し接合していたと想定できる。外面にはミガキを施し、脚部孔内面は板ナデを施す。胎土はやや密で2mm以下の長石を含み、焼成は良好である。

8・10は有孔鉢の底部片である。どちらも焼成前に穿孔されている。8は外面にナデ・オサエを施し、内面は反時計回りに板ナデを施す。また、底部裏面には面を一周する凹みが観察できる。これは最初に成形した底部に粘土紐を付加した結果できた痕跡と想定でき、外面に確認できるオサエはこれに対応したものと考える。孔は内面の板ナデ後に内面から穿孔しており、孔内部には横方向の擦痕が確認できる。胎土は3mm以下の長石を含み、焼成は良好で、黒斑が確認でき、内面は黒い。10は外面に水平ないし右肩上がりのタタキ痕跡が確認でき、内面にはナデを施す。破断面の観察から、底部成形時にできる穴を成形後に粘土で充填したことが窺える。その後内面から穿孔し、裏面から孔の大きさを調整している。また、孔内部には何度か調整した痕跡が確認できる。底部裏面には木葉痕がある。胎土はやや密で3mm以下の白色鉱物を含み、焼成は良好である。黒斑が確認できる。

11は脚付き鉢で脚部と底部が残存する。外面にはオサエを施す。内面には板ナデが確認できるが、磨滅しており不明瞭である。外面のオサエは底部と脚部を接合する際に施したと想定できる。胎土はやや密で1mm程の長石を含み、焼成は良好である。黒斑は脚部で確認できる。

遺物の時期として、底部は球形・尖底化したものではなく、すべて平底か中央が凹む底で、多くがやや突出し、推定できる器形は口径より体部径が大きい。特に6・7・14は底部があまり突出しておらず体部全体の球形化を窺うことができ、庄内様式前半の様相をもつ。さらに、タタキ痕は太筋で、タタキ後に調整を行っているものが少ない。以上から、弥生時代後期後葉から弥生時代末に該当するものが多くを占めると考える。ただし、小片で図化できなかったが、凹線文が確認できる破片も出土しており、弥生時代中期後葉に相当するものも

も少数ではあるが含まれる。

また、器種・部位が不明だが、色調が暗茶褐色を呈し、胎土に金雲母を含んだ土器片が出土している。この土器片は生駒西麓産のものと考えられ、当該遺跡は中・南河内地域との関わりがあったと推測できるが、詳細は不明で今後の調査に期待したい。(宇野)

引用・参考文献

富田好久 1997 「弥生時代の池田」『池田市史』第1巻、池田市史編集委員会、156～157頁。

第1表 第3次調査出土遺物観察表

掲載 番号	種類	器種	部位	出土遺構	法 量 (cm)			色 調		備 考
					器高 [現存値]	口径 [復元値]	底径 [復元値]	外面	内面	
1	弥生土器	直口壺	口縁部	SK21	[4.7]	[13.8]	—	5YR7/8	5YR7/8	3-16
2	弥生土器	広口壺	口縁部	SK2	[1.5]	—	—	5YR7/6	7.5YR6/8	1-14 黒斑有
3	弥生土器	甕	口縁部	SK2	[2.5]	—	—	10YR8/4	10YR8/4	1-15
4	弥生土器	甕	口縁部		[3.2]	—	—	7.5YR8/6	7.5YR8/8	3-12
5	弥生土器	高坏	脚部	SK2	[6.1]	—	—	7.5YR8/6	7.5YR7/6	7-1
6	弥生土器	甕	底部	SK21	[2.3]	—	4.7	10YR8/3	10YR7/4	15-9 黒斑有
7	弥生土器	甕	底部	SK2	[2.0]	—	3.5	7.5YR8/8	10YR8/6	9-3
8	弥生土器	有孔鉢	底部	SK2	[3.5]	—	4.5	N4/0	N4/0	11-5 黒斑有
9	弥生土器	甕	底部	SK2	[3.3]	—	4.5	7.5YR7/6	7.5YR7/8	10-4 靱圧痕有
10	弥生土器	有孔鉢	底部		[3.7]	—	[4.0]	7.5YR8/4	10YR8/4	12-6 黒斑有 木葉痕有
11	弥生土器	鉢	脚部	SK21	[3.4]	—	5.2	10YR8/4	10YR8/4	16-10 黒斑有
12	弥生土器	甕	底部		[3.3]	—	[6.6]	5YR7/6	5YR6/8	13-7
13	弥生土器	甕	底部	SK21	[3.0]	—	[4.0]	7.5YR8/4	10YR3/1	17-11
14	弥生土器	甕	底部	SK2	[2.1]	—	3.6	10YR8/6	7.5YR8/8	8-2 黒斑有
15	弥生土器	甕	底部	SK21	[2.5]	—	[2.7]	10YR7/4	5YR7/6	14-8 黒斑有

Ⅱ．池田城跡第 87 次調査

1．遺跡の概要（第 1・8 図）

池田城は五月山麓南側の段丘西部に位置する。池田城を拠点としたのは国人領主池田氏であるが、その詳細な出自については明らかでない。14 世紀前半にはすでに築城されていたようで、15 世紀後半頃以降、池田氏が領地拡大を指向するなかで数々の落城を経験している。そして、池田二十一人衆を抑え支配していた荒木村重が岡城に入城したことで、支配拠点としての機能を失ったとされる（富田 1997）。

池田城跡での過去の調査については、大阪教育大学を主体とする池田城跡発掘調査団が昭和 43 年に結成され昭和 44 年まで主郭の調査が初めて行われた。その結果、庭園跡や礎石建物跡などが検出され、池田氏の繁栄ぶりを垣間見ることができた。その後、主郭部の公園整備に先立ち平成元年から平成 4 年まで池田市教育委員会が発掘調査を行った。これにより、主郭は 5 つの時期に区分でき、落城と再整備を繰り返しながら防御機能を高めていたことが明らかとなった（田上・中西編 1994）。さらに、周辺の宅地化などの開発に伴った発掘調査が大阪府教育委員会や池田市教育委員会によって行われ、堀跡などの城郭の構造や城郭全体の変遷などが明らかになりつつある（田上 1992、中西 2009、2012）。



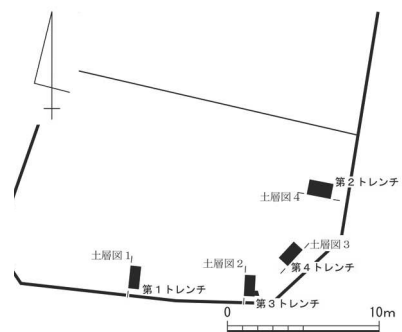
第 8 図 調査地位置図 (1/10000)

2．調査の概要（図版第 5～6、第 8～10 図）

調査地は建石町 1978 番 12 に位置し、個人住宅の建築に先立ち調査を実施した。当該地は想定される堀 3 の検出を目的として、調査地南側および西側に堀と直交するようにトレンチを 4 つ設けた。調査面積は合計 4.29 m²である。

土層堆積状況は、現代盛土層（第 1・5 層）の直下には近世以降の整地土層（第 2・3・7 層）が堆積していた。その下は第 2・4 トレンチで堀の埋土層（第 6・8 層）、第 1～3 トレンチで曲輪造成時の整地土層（第 4 層）を確認した。

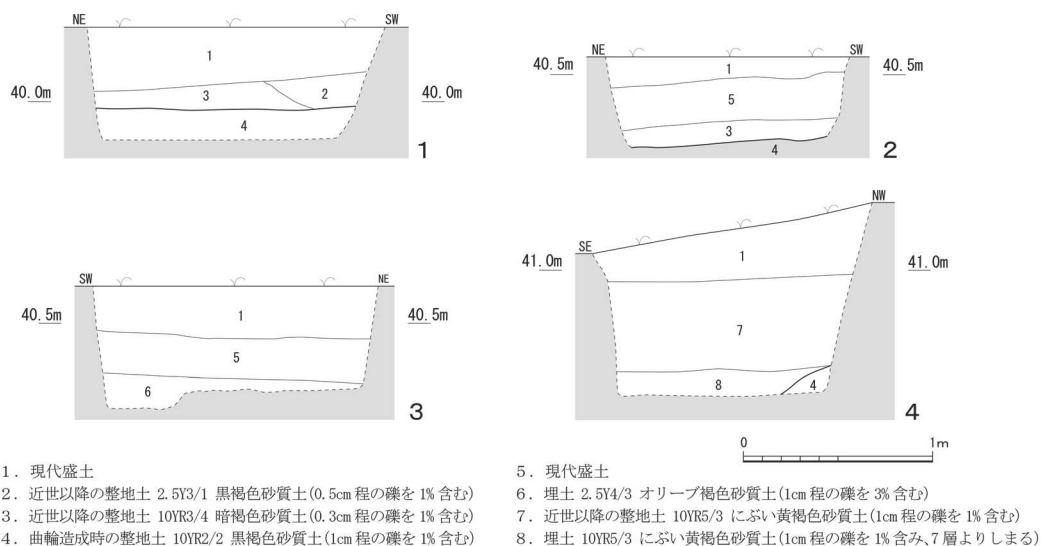
遺構は第 2 トレンチで西から東へ落ち込む堀 3 の掘形を検出した。掘形の上端を捉えることはできなかったが、第 4 層を掘りこんでいると考えられる。第 4 トレンチでは第 4 層を確認できず、第 1・3 トレンチでは掘形



第 9 図 トレンチ位置図 (1/500)

上端を確認できなかったことから、少なくとも南北に掘られた堀3は調査地東端を通り、調査地の外で西側へ折れていることが推定できる。なお、調査時に遺物は出土しなかった。

(宇野)



第 10 図 土層断面図 (1/40)

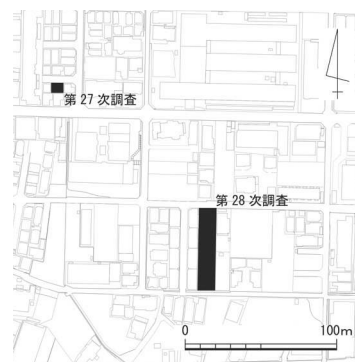
引用・参考文献

- 田上雅則 1992 『池田城跡―遺跡発掘事前総合調査概要報告―』池田市教育委員会。
- 田上雅則 2003 「畿内惣構えに関する素描―池田城跡を中心として―」『考古学論叢』下、関西大学考古学研究室開設五拾周年記念考古学論叢刊行会、1103～1125 頁。
- 田上雅則・中西正和 1994 『池田城跡―主郭の調査―』池田市教育委員会。
- 富田好久 1997 「池田城の様相」『池田市史』第 1 巻、池田市史編纂委員会、665～681 頁。

Ⅲ. 神田北遺跡（第 27 ～ 28 次調査）

1. 遺跡の概要（第 1 図）

神田北遺跡は猪名川左岸の低位段丘上に位置する。昭和 50 年、神田北遺跡南西部に位置する脇塚古墳周辺で、安山岩製の石鏃や弥生土器片、須恵器片などが表採されたことを契機として発掘調査を行った。その結果、縄文時代から中世に至る遺跡であることが判明した（江崎・橘高・富田 1975、1977）。その後、集合住宅建築に伴う事前の発掘調査などにより、弥生時代後期の竪穴建物跡や奈良時代の掘立柱建物跡などが検出できた。また、平成 10 ～ 13 年にかけて、府道神田池田線拡幅工事に伴った発掘調査が大阪府教育委員会により行われ、溝跡などが検出され国府型ナイフ形石器や須恵器坏身などが出土した（藤田 2002）。

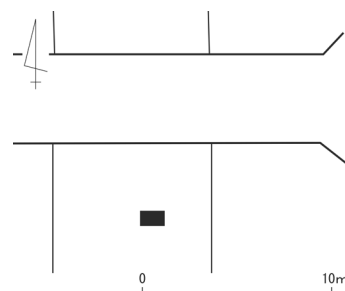


第 11 図 調査地位置図 (1/5000)

2. 調査の概要（図版第 7、第 11 ～ 14 図）

（1）第 27 次調査（第 11 ～ 12 図）

調査地は神田 1 丁目 1292 番 7 に位置している。個人住宅の建築に先立ち調査を実施した。調査面積は 1.04 m²である。土層堆積状況は表土から 50 cm まで現代盛土層であった。



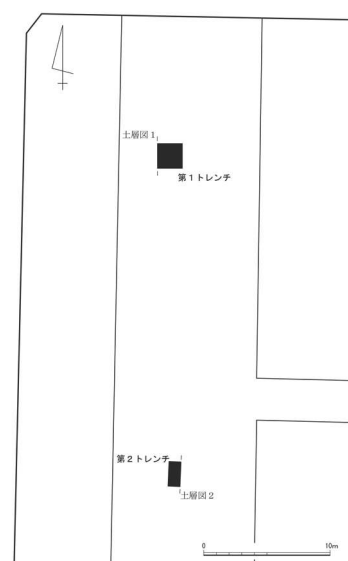
第 12 図 第 27 次調査トレンチ位置図 (1/400)

（2）第 28 次調査（図版第 7、第 11・13 ～ 14 図）

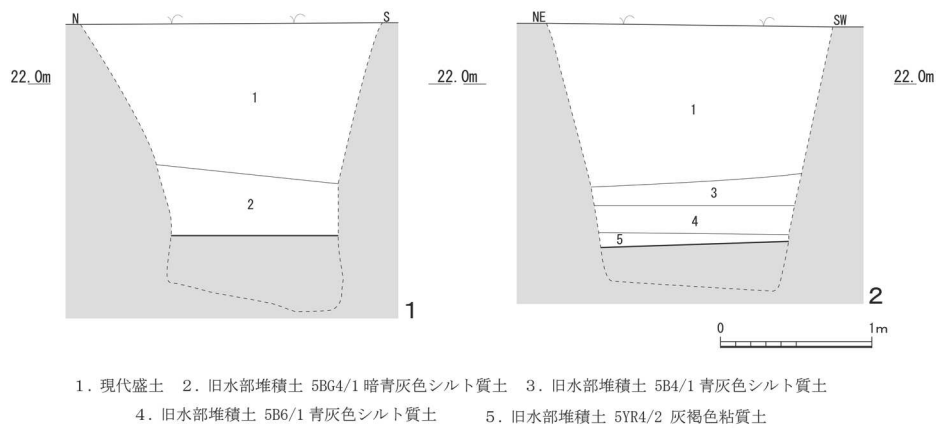
調査地は神田 1 丁目 1251 番 2 に位置している。共同住宅の建築に先立ち調査を実施した。トレンチを 2 つ設定し、北側のトレンチを第 1 トレンチ、南側のトレンチを第 2 トレンチとした。調査面積は合計で 6 m²である。

土層堆積状況は現代盛土層（第 1 層）の直下で旧水部堆積土層（第 2 ～ 5 層）が堆積し、その下は全面地山である。当該調査では明確な遺構は確認できなかったが、旧水部堆積土から須恵器甕片が 2 点出土した。

当該調査地から西へ 50 m 程離れた地点でも暗緑灰色粘土の旧水部堆積土層を確認しており（中西 2008）〈神田北遺跡第 15 次調査〉、この付近一帯に湿地に類するものが存在していたことが想定できる。さらに、当該調査と第 15 次調査の中間に位置する地点〈神田北遺跡 18 次調査〉では南北



第 13 図 第 28 次調査トレンチ位置図 (1/600)



第 14 図 第 28 次調査土層断面図 (1/50)

方向の溝跡を検出しており（中西 2011）、この溝との関連性について今後検討していきたい。
（宇野）

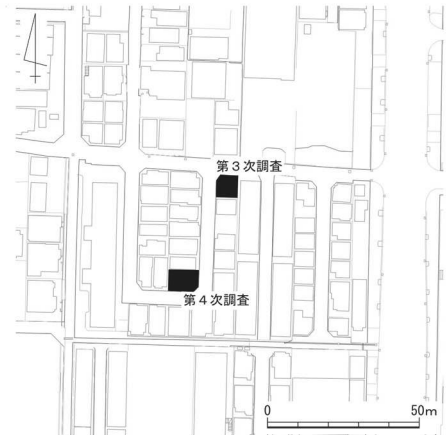
引用・参考文献

- 江崎 雪・橘高和明・富田好久 1975 『池田市神田遺跡発掘調査報告』池田市教育委員会。
富田好久・江崎 雪・橘高和明 1977 「神田複合遺跡について」『池田郷土研究』第 4 号、池田郷土史学会、382 ～ 390 頁。
中西正和 2008 『池田市埋蔵文化財発掘調査概報』池田市教育委員会、8 ～ 9 頁。
中西正和 2011 『池田市埋蔵文化財発掘調査概報』池田市教育委員会、5 ～ 7 頁。
藤田道子 2002 『禅城寺・宇保・神田北遺跡』大阪府教育委員会。

IV. 宇保遺跡（第3～4次調査）

1. 遺跡の概要（第1図）

宇保遺跡は猪名川左岸の低位段丘上に位置する。当初、中世に位置づけられる遺物の散布地として認識していた。平成10～13年にかけて、府道神田池田線拡幅工事に伴った発掘調査が大阪府教育委員会により行われ、古墳時代末期の土坑や幅2m、深さ0.8mを測る鎌倉時代の溝が検出された（藤田2002）。これにより、隣接する禅城寺遺跡・神田北遺跡と同様に集落跡として認識できるに至ったが、それ以降の調査では明確な遺構などは見つかっておらず（中西2007、2022）、詳細は明らかになっていない。



第15図 調査地位置図 (1/2500)

2. 調査の概要（図版第8、第15～17図）

（1）第3次調査（図版第8a、第15～17図）

調査地は宇保町177番4に位置し、分譲住宅の建築に先立ち調査を実施した。調査面積は2.4㎡である。土層堆積状況は現代盛土層（第1層）の直下には整地土層（第2層）および旧水部堆積土層（第3層）が堆積し、その下で全面地山を確認した。当該調査で明確な遺構や遺物は確認できなかった。

（2）第4次調査（図版第8b、第15～17図）

調査地は宇保町177番27に位置し、個人住宅の建築に先立ち調査を実施した。調査面積は2.2㎡である。土層堆積状況は現代盛土層（第1層）の下には全面で旧水部堆積土層（第2～5層）を確認した。当該調査で明確な遺構や遺物は確認できなかった。

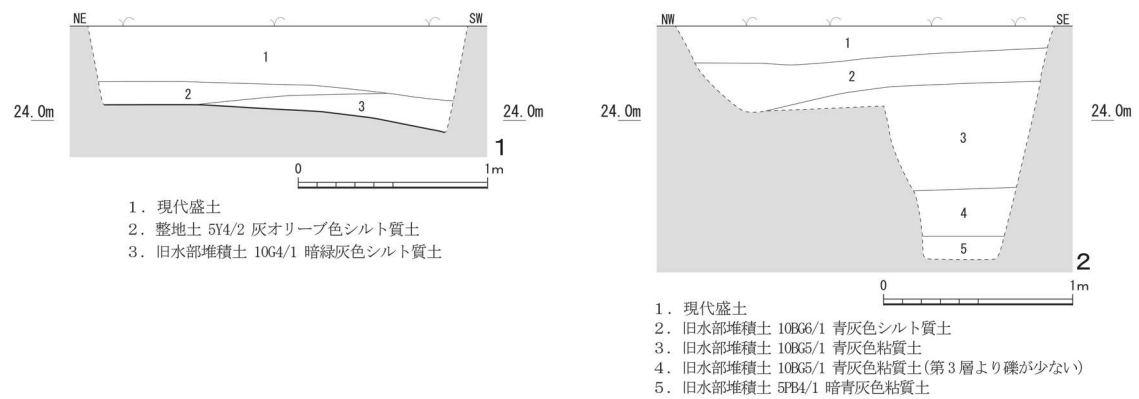
（3）旧水部堆積土について

第3・4次調査ともに旧水部堆積土層を確認した。これはこの付近一帯に湿地に類するものが存在していたことを示しており、土層堆積状況から窺うに北東から南西にかけて深くなっている。大阪府教育委員会が行った発掘調査で検出された大溝との関係性を窺うことができるが、憶測でしかない。

（宇野）



第16図 トレンチ位置図 (1/500)



第 17 図 土層断面図 (1/40)

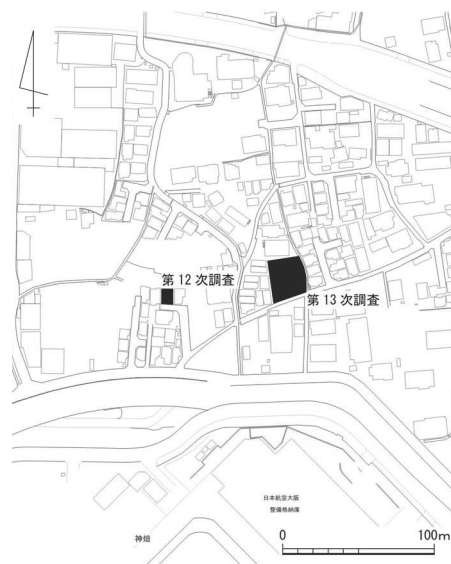
引用・参考文献

- 中西正和 2007 「禅城寺遺跡・宇保遺跡発掘調査」『池田市埋蔵文化財発掘調査概報』2006 年度、池田市教育委員会、22 頁。
- 中西正和 2022 「宇保・禅城寺遺跡調査」『池田市埋蔵文化財発掘調査概報』2021 年度、池田市教育委員会、10 頁。
- 藤田道子 2002 『禅城寺・宇保・神田北遺跡』大阪府教育委員会。

V. 豊島南遺跡（第12～13次調査）

1. 遺跡の概要（第1図）

豊島南遺跡は猪名川左岸および箕面川左岸の低位段丘上に位置する。昭和55・56年に池田市教育委員会が実施した分布調査で須恵器片を表採したことから、古墳時代を中心とする遺跡と捉えていた。しかし、昭和60年に大阪府教育委員会により行われた調査では、弥生時代末から古墳時代後期の溝跡が検出された。そして、昭和62・63年に実施した池田市教育委員会による調査では弥生時代中期の方形周溝墓や弥生時代末の竪穴建物跡、古墳時代中期の方墳、中世の溝跡などが検出できた。さらには、縄文時代後・晩期に位置づけられる土器片が出土した。これにより、縄文時代から中世にわたる複合遺跡であることが明らかとなったが、遺跡の広がりについてなど詳らかでないことが多い。

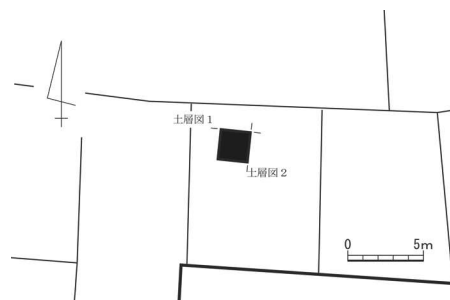


第18図 調査地位置図（1/5000）

2. 調査の概要（図版第9～12、第18～22図）

（1）第12次調査（図版第9a、第18～19・21図）

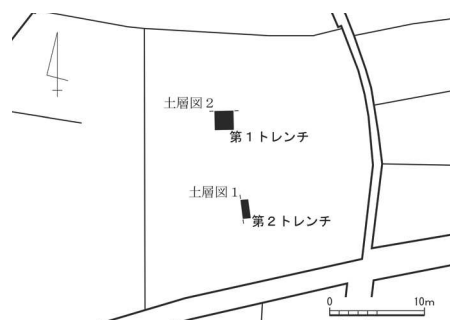
調査地は豊島南2丁目243番10に位置し、個人住宅の建築に先立ち調査を実施した。調査面積は4㎡である。土層堆積状況は現代盛土層（第1・4層）の下で古墳時代の遺物包含層（第2層）を確認し、その下では弥生時代の遺物包含層（第3層）が堆積していた。その下では全面地山を確認した。当該調査で明確な遺構は確認できなかったが、第3層上面で須恵器坏身・蓋、甕などを含む土器溜まりを検出した。



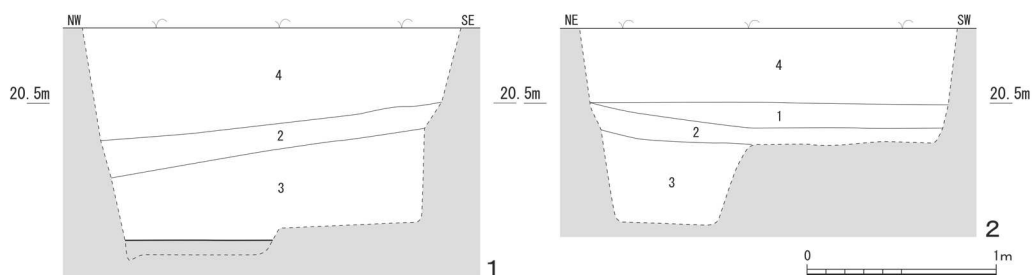
第19図 第12次調査トレンチ位置図（1/500）

（2）第13次調査（図版第9b・c、第18・20・22図）

調査地は豊島南1丁目271番1に位置し、宅地造成に先立ち調査を実施しトレンチを2つ設定した。北側のトレンチを第1トレンチ、南側のトレンチを第2トレンチとした。調査面積は合計で5.8㎡である。土層堆積状況は、第1トレンチでは現代盛土

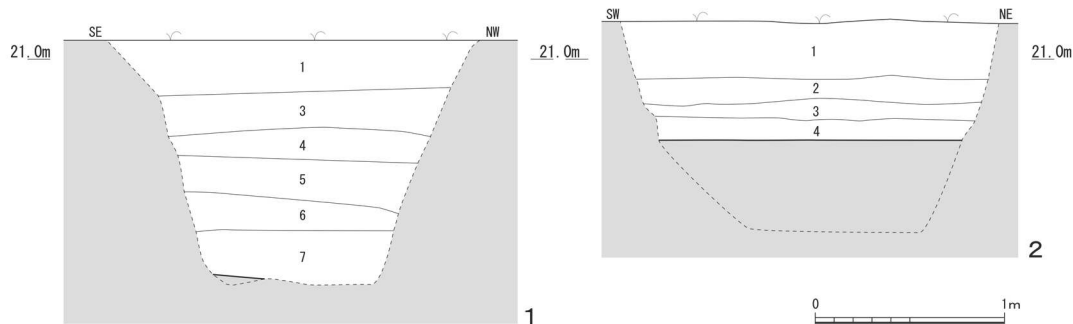


第20図 第13次調査トレンチ位置図（1/800）



1. 現代盛土(解体残土含む) 2. 遺物包含層 10YR4/6 褐色シルト質土 3. 遺物包含層 10YR4/4 褐色シルト質土 4. 現代盛土

第 21 図 第 12 次調査土層断面図 (1/40)



1. 現代盛土 2. 旧表土 3. 耕土 4. 床土 5. 無遺物層 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト質土
6. 無遺物層 10YR6/2 灰黄褐色シルト質土 (1 cm 以下の礫を含む) 7. 遺物包含層 10YR5/2 灰黄褐色シルト質土

第 22 図 第 13 次調査土層断面図 (1/40)

層（第 1 層）の下に旧表土層（第 2 層）、耕土層（第 3 層）、床土層（第 4 層）が順に堆積し、その下で全面地山を確認した。第 2 トレンチでは現代盛土層（第 1 層）の下に耕土層（第 3 層）、床土層（第 4 層）、無遺物層（第 5・6 層）が順に堆積し、その直下で土師器・須恵器細片を含む遺物包含層（第 7 層）が堆積していた。そして、地山はトレンチ南端付近で確認した。当該調査で明確な遺構は確認できなかった。

3. 出土遺物について（図版第 10～12、第 23～25 図、第 2 表）

出土した遺物には弥生土器片・須恵器片などがあり、破片数にして 100 点あまりが出土した。小片が多く、調整などの残存状況が良好なものは少ないため、このうち図化できた 22 点を掲載した。また、図化したものは全て第 12 次調査時に出土したものである。

（1）弥生土器（図版第 10、第 23 図）

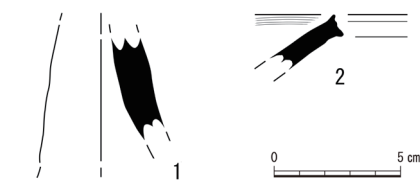
1 は高坏の脚部片である。外面調整は磨滅しており不明で、内面には下部で横方向の擦痕が確認できるが、その他は未調整である。胎土はやや粗く 3 mm 以下の白色・無色鉱物を含み、焼成は良好である。脚部のみが残存しているため詳細は明らかでないが、復元すると脚部がやや円錐状で中空になり裾部は大きく開くと想定できる。また、残存状況から坏部と脚部を別に成形してからそれぞれを接合していると考えられる。2 は甕の口縁部片である。残存率

が1/8を下回るため、口径を復元することはできない。口縁端部には退化した凹線文を施し、内外面ともに横ハケ後、横ナデを施す。胎土は密で3mm以下の白色・黒色鉱物を含み、焼成は良好である。口縁端部に退化した凹線文が確認できることから弥生時代後期前葉に該当すると考える。

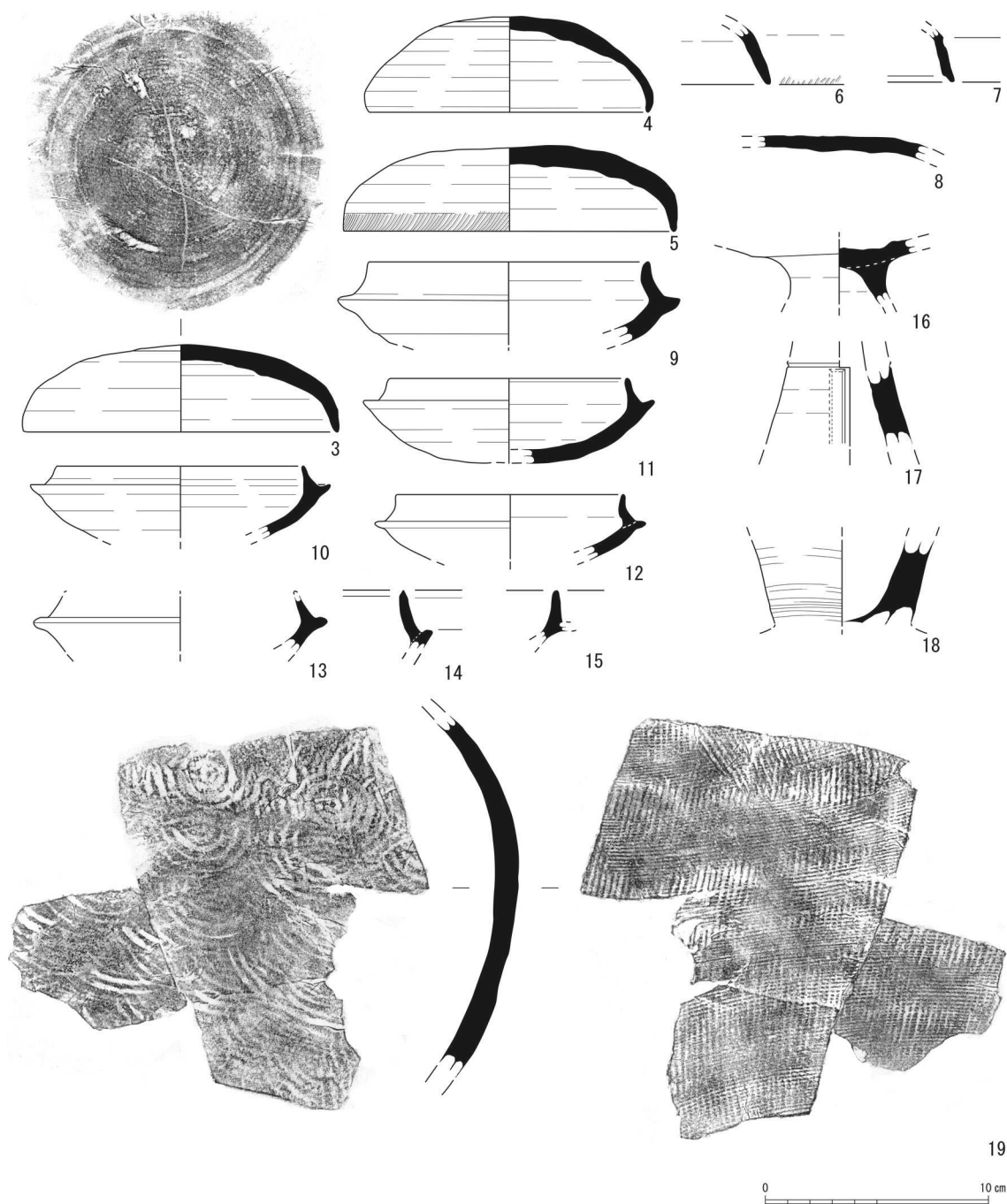
(2) 須恵器 (図版第10～12、第24図)

坏蓋 (3～8) 3は天井部と口縁部の境に稜はなく、口縁端部は丸く収めている。天井部の3/4にかけて反時計回りに内から外へ回転ヘラケズリを施す。口縁部外面と内面には回転ナデを施す。胎土はやや密で5mm以下の長石を含み、焼成は良好である。天井部には浅く刻まれたヘラ記号が確認できる。4は天井部と口縁部の境に稜はなく、口縁端部は丸く収めている。天井部のヘラ切り後、反時計回りに回転ヘラケズリを1周半行う。ヘラ切り痕は不明瞭である。口縁部外面と内面全体に回転ナデを施し、天井部内面には回転ナデ後、静止ナデを行う。胎土はやや密で7mm以下の長石を含み、焼成はやや良好である。5は天井部と口縁部の境に稜はなく、口縁端部は丸く収めている。天井部の2/3にかけて反時計回りに回転ヘラケズリを行う。口縁部外面には刻み目状の調整を行い、その他には回転ナデを施す。天井部内面には静止ナデを施す。胎土はやや密で7mm以下の長石を含み、焼成は良好である。6・7は口縁部片である。残存率が1/8を下回るため、口径を復元することはできない。6は天井部と口縁部の境に稜はなく、口縁端部は丸く収めている。内外面ともに回転ナデを施し、その後に口縁端部外面に刻み目状の調整を施す。胎土は緻密で3mm以下の白色鉱物を含む。焼成は不良で上手く還元されていない。7は天井部と口縁部の境に不明瞭な稜があり、口縁端部には内傾する段を作りだしている。内外面ともに回転ナデを施す。胎土は緻密で1mm以下の白色鉱物を含み、焼成は良好である。8は天井部のみが残存している。天井部には反時計回りに回転ヘラケズリを施す。内面には回転ナデを施し、同心円状の当て具痕が複数確認できる。胎土は緻密で2mm以下の白色鉱物を含み、焼成は良好である。

坏身 (9～15) 9は口縁端部を丸く収め、受け部は平行にのび、端部は丸く収める。たちあがりはやや内湾する。底部外面の3/4に回転ヘラケズリを反時計回りに施し、その他はすべて回転ナデを施す。胎土は緻密で5mm以下の白色鉱物を含み、焼成は良好である。10は口縁端部を丸く収め、受け部は上外方へのび、端部は先細り気味に丸く収める。たちあがり内傾する。内外面ともに回転ナデを行う。胎土は緻密で1mm以下の長石を含み、焼成は良好である。外面体部に自然釉が付着している。11は口縁端部を丸く収め、受け部は上外方へのび、端部は丸く収める。たちあがり内傾する。底部の3/4にかけて反時計回りの回転ヘラケズリを行い、その他は回転ナデを施す。胎土はやや密で2mm以下の長石・石英を含み、焼成はやや良好である。12は口縁端部を丸く収め、受け部は平行にのび、端部は丸く収める。たちあがりはやや内湾する。内外面ともに回転ナデを施す。胎土は緻密で3mm以下の石英・



第23図 第12次調査出土弥生土器実測図 (1/3)



第24図 第12次調査出土須恵器実測図 (1/3)

白色鉾物を含み、焼成は良好である。13は口縁端部が欠損している。受け部は平行にのび、端部は丸く収める。内外面ともに回転ナデを施す。胎土は緻密で3mm以下の石英・白色鉾物を含み、焼成は良好である。

14・15は残存率が1/8を下回るため、口径を復元することはできない。14は口縁端部に若干の段を作りだし、受け部は上外方へのび端部は丸く収める。たちあがりはやや内傾する。胎土は緻密で1mm以下の白色鉾物を含み、焼成は良好である。15は口縁端部を丸く収め、受け部は平行にのびる。たちあがりあまり内傾していない。胎土は緻密で1mm以下の無

色鉱物を含む。焼成は不良で還元できていない。

高坏（16・17） 16は坏部の底部と脚部の上端が残存している。残存する坏部の底部には回転ヘラケズリを施し、底部内面には反時計回りの回転ナデ、その後静止ナデを行う。胎土は緻密で4mm以下の長石を含み、焼成は良好である。17は透孔をもつ脚部片で約1/3が残存する。透孔の形状は残存部分から方形状の透孔を想定でき、透孔直上には2本の沈線が入る。外面には回転ナデ、内面には静止ナデを施す。これらの特徴から長脚で2段、3方向に透孔を入れた高坏であると想定できる。胎土は緻密で2mm以下の白色鉱物を含み、焼成は良好である。

厚底鉢（18） 底部付近の約1/2が残存し、円盤状の底部は剥離している。体部は直線的に外傾している。体部外面には1cmあたり7～8本程度の回転カキメを施し、内面には回転ナデを施す。胎土は緻密で2mm以下の無色・白色鉱物を含み、焼成は良好である。体部外面には自然釉が付着している。

甕（19） 胴部片である。外面には平行タタキを施した後、カキメを施してから部分的にナデ消している。内面には円弧状の当て具痕を残しているが、ナデ消している。胎土は緻密で3mm以下の石英を含む。焼成はやや不良である。

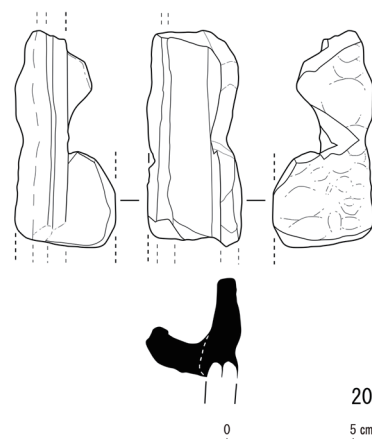
時期について、田辺昭三氏による須恵器編年（田辺 1966、1981）を主に参照すると、坏蓋の3・5は口径が14cmを越え、天井部と口縁部の境にあたる稜が消失し、口縁端部を丸く収めていることからTK 43 型式段階に相当するといえる。4は口径が12.8cmと比較的小さくTK 209 型式段階に該当する。また、7は口縁部のみの資料だが、天井部と口縁部の境に形骸化した稜が確認でき、口縁端部には内傾する段があることからTK 10 型式段階にあたる。坏身の9～13は口径が10.2～12.6cmと比較的小さく、たちあがりの高さが低いことからTK 209 型式段階に該当する。14は口縁部のみの資料だが、口縁端部に内傾する若干の段があり、たちあがりの高さが高いことからMT 15 型式段階に相当する。高坏の17は脚部が長脚で方形透孔を3方向に2段入れていることからMT 85～TK 209 型式段階に相当するといえる。

（3）そのほか（図版第11、第25図）

移動式竈（20） 焚口基部周辺の破片である。体部は直線的に上方へのび、付加物として突帯を持つ。磨滅が激しく外面の調整は不明瞭だが、突帯を器壁に貼り付けるためのヨコナデが確認できる。内面には突帯端面のナデに対応する形でオサエが確認できる。煤の付着は確認できない。やや粗く2mm以下の白色鉱物を含み、焼成は良好である。

（4）豊島南遺跡出土須恵器の諸特徴（第5次調査）

当該調査では、一括性はないが豊島南遺跡の性格を窺うことができる遺物が出土した。特に須恵器につい



第25図 第12次調査出土竈実測図
(1/3)

ては着目すべき要素を持つものが存在する。そのため、ここでその諸特徴について述べていきたい。

今回出土した坏蓋には口縁端部外面に刻み目状の調整をもつものが2点存在する（6・13）。この調整は1次成形の段階のもので「口縁端部を対象として臨機に行われる特徴的な成形技法の一種として認識しておくことが穏当」とされている（江浦 1995a）。さらに、江浦氏はハケメ状のものと叩き目状のものに大別できるとしている。そして、その分布状況は陶邑窯跡群の北側・東側周辺地域に集中し、群集墳盛行期に造られた窯での出土が多いため、時期・地域が限定できる技法の特徴としている。ただ、桜井谷窯跡群でもこの調整をもつものが出土していることから（柳本編 1982）、豊島南遺跡出土の坏蓋は桜井谷窯群から搬出された可能性がある。また、当該調査では13・18のような生焼けとなっている不良品が出土した。このような不良品は窯や集落の集荷場で選別され廃棄されていたと考えられており、豊島南遺跡周辺の遺跡では、新免遺跡で不良品の選別を行っていたことが想定されている（山元 1995）。豊島南遺跡でも窯から搬入したものを選別していたことが想定できる。

豊島南遺跡出土の坏蓋で確認できる刻み目状の調整について、より詳細にみていくと、6と13では施された調整の痕跡が異なる。6はハケ状工具で調整し、13はヘラ状工具で調整したことが想定でき、双方ともに右肩上がり痕跡である。そして、回転ナデによりこれらの調整が消えていないことから最終調整段階で行った可能性がある。江浦氏の論には再考の余地があるのではないだろうか⁽¹⁾。（宇野）

註

- (1) 実見したわけではないが、日置荘遺跡の報告書図版編（江浦 1995b）に掲載されている刻み目状の調整にはナデ調整よりも前に施されたもの（図版Ⅲ－34：2～4）と後に施されたもの（図版Ⅲ－34：6）が混在しているようにみえる。

引用・参考文献

- 江浦 洋 1995a 「陶邑周辺部における須恵器生産点描」『日置荘遺跡』分析・考察編、大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター、1～36頁。
- 江浦 洋 1995b 『日置荘遺跡』図版編、大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター。
- 田辺昭三 1966 『陶邑古窯址群』Ⅰ、平安学園考古学クラブ。
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』角川書店。
- 柳本照男 1982 『桜井谷窯跡群2－17窯跡』少路窯跡遺跡調査団。
- 山元 健 1995 「須恵器生産の始まりと集落」『大阪府埋蔵文化財協会研究紀要』3、財団法人大阪府埋蔵文化財協会、159～170頁。

第2表 第12次調査出土遺物観察表

掲載 番号	種類	器種	時期	法 量 (cm)		色 調		備 考
				器高 [現存値]	口径 [復元値]	外面	内面	
1	弥生土器	高坏	不明	[5.5]	-	5YR6/8	10YR7/4	1-21
2	弥生土器	甕	後期前葉	[2.1]	-	2.5YR6/8	2.5YR5/4	17-22
3	須恵器	坏蓋	TK43	3.9	[14.1]	N7/0	N7/0	6-2
4	須恵器	坏蓋	TK209	4.3	[12.8]	N7/0	N7/0	5-1
5	須恵器	坏蓋	TK43	3.8	[15.0]	N5/0	N6/0	14-6 口縁端部外面に刻み目文
6	須恵器	坏蓋	不明	[2.7]	-	10R3/3	10R5/2	15-13 焼成不良 口縁端部外面に刻み目文
7	須恵器	坏蓋	TK10	[2.4]	-	5GY7/1	7.5Y7/1	15-14
8	須恵器	坏蓋	不明	[1.2]	-	N8/	5B5/1	15-16 内面に当て具痕
9	須恵器	坏身	TK43	[3.6]	[12.6]	N7/0	N7/0	15-7
10	須恵器	坏身	TK209	[3.2]	[10.8]	3/0	N6/0	7-3
11	須恵器	坏身	TK209	[3.8]	[10.3]	2.5GY6/1	N6/0	8-4
12	須恵器	坏身	TK209	[2.8]	[10.2]	5R7/1	5R7/1	15-8
13	須恵器	坏身	TK209	[2.4]	-	N7/0	N7/0	15-11
14	須恵器	坏身	MT15	[2.6]	-	N5/	N5/	15-9
15	須恵器	坏身	不明	[2.4]	-	2.5YR5/4	2.5YR6/8	2-18 焼成不良
16	須恵器	高坏	不明	[2.9]	-	N5/0	N6/0	9-5
17	須恵器	高坏	不明	[3.7]	-	N6/	N5/	15-10
18	須恵器	鉢	不明	[3.8]	-	N8/	N8/	2-17 外面に自然釉
19	須恵器	甕	不明	[16.5]	-	7.5Y8/1	7.5Y8/1	16-19
20	土製品	移動式竈	不明	[8.6]	-	10YR8/4	5YR7/8	11-20

Ⅵ．試掘調査

(掘削委託を伴わない調査)

①宮の前遺跡第 24-1 次調査

位置：池田市石橋 1-82-1-1 の一部、
82-1-2、82-2

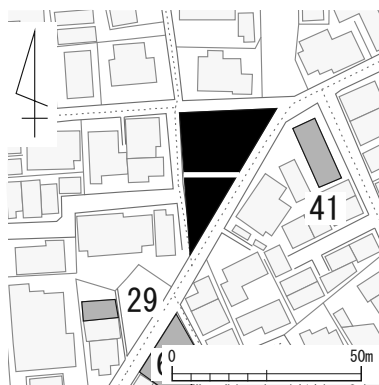
調査期間：令和 6 年 4 月 15 日

調査面積：6 m²

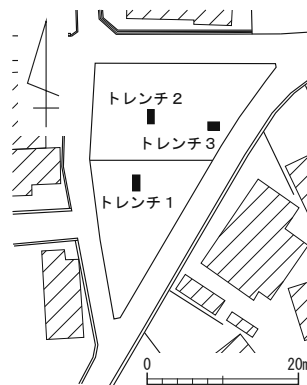
調査の概要

試掘調査は共同住宅建築に先立ち実施した。

層序は、上から盛土 (40 ～ 50 cm)、
黒褐色粘質土 (20 cm)、褐色
粘質土 (地山)。第 1 トレン
チの地山上から幅 20 cm、深
さ 15 cm の溝を確認。また、
黒褐色粘質土から土師質土器
が出土した。協議の結果、杭
の規模が変更となったため、本調査には至らなかった。



第 26 図 調査地位置図



第 27 図 トレンチ位置図



第 28 図 第 1 トレンチ掘削状況



第 29 図 第 2 トレンチ掘削状況

②池田城跡第 24-2 次調査

位置：池田市上池田 1-1638-1

調査期間：令和 6 年 6 月 28 日

調査期間：20 m²

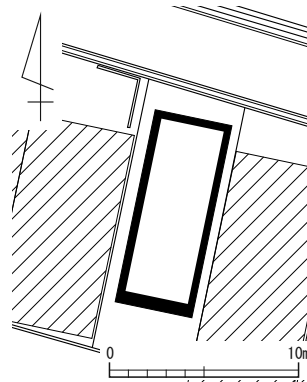
調査の概要

試掘調査は個人住宅建築に先立ち実施した。届出提出時は杭・改良は不明だったため、発掘調査で対応した。その後、杭・改良がないことがわかったため、近隣調査結果を鑑み、試掘は基礎工事時に行った。

層序は、上から盛土 (50 cm)。遺構・遺物は確認できなかった。



第 30 図 調査地位置図



第 31 図 トレンチ位置図



第 32 図 掘削状況

③神田北遺跡第 24-3 次調査

位置：池田市八王寺 2-1373-4 の一部

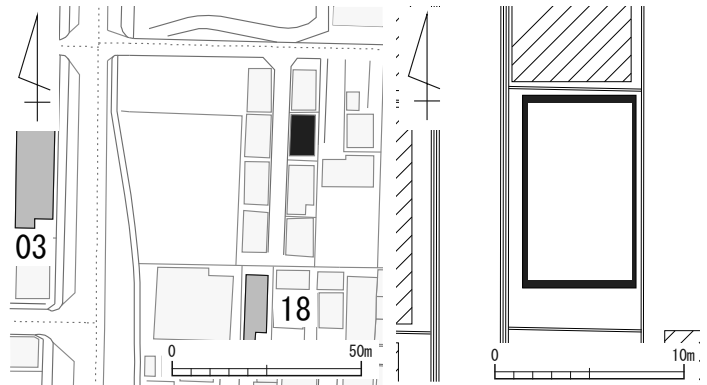
調査期間：令和 6 年 6 月 28 日

調査期間：20 m²

調査の概要

試掘調査は個人住宅建築に先立ち実施した。届出提出時は杭・改良は不明だったため、発掘調査で対応した。その後、杭・改良がないことがわかったため、近隣調査結果を鑑み、試掘は基礎工事時に行った。

層序は、上から盛土（30 cm）。遺構・遺物は確認できなかった。



第 33 図 調査地位置図

第 34 図 トレンチ位置図

④豊島南遺跡第 24-4 次調査

位置：豊島南 2-241-5 他

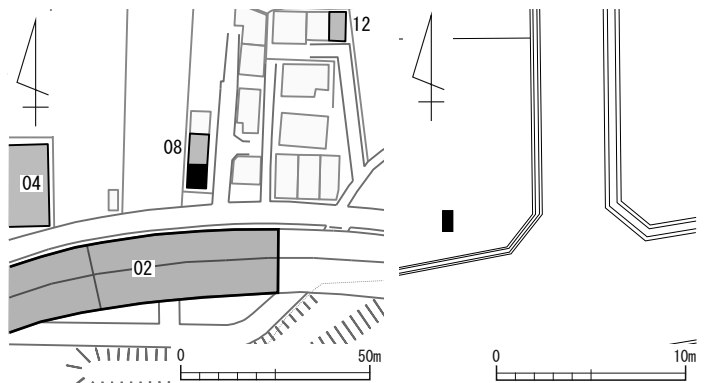
調査期間：令和 6 年 10 月 31 日

調査期間：1 m²

調査の概要

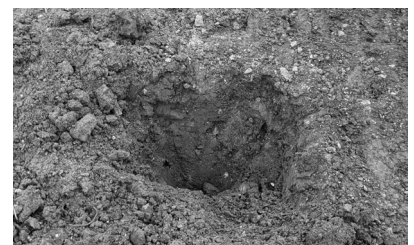
試掘調査は事務所建築に先立ち実施した。

層序は、上から盛土（30 cm）。遺構・遺物は確認できなかった。



第 35 図 調査地位置図

第 36 図 トレンチ位置図



第 37 図 掘削状況

⑤池田城跡第 24-5 次調査

位置：池田市上池田 1-3352 の一部、
3352-1 の一部

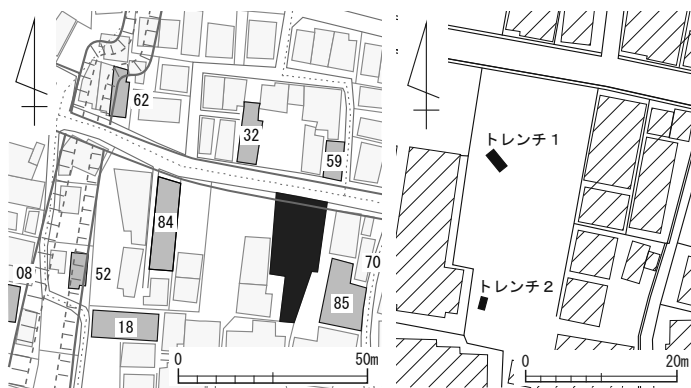
調査期間：令和 6 年 11 月 18 日

調査面積：4 m²

調査の概要

試掘調査は共同住宅建築に先立ち実施した。

層序は、上から盛土 (50～100 cm)、
黒褐色砂質土 (30～40 cm)、
褐色砂質土 (地山)。遺構・遺物は確認できなかった。



第 38 図 調査地位置図

第 39 図 トレンチ位置図



第 40 図 第 1 トレンチ掘削状況



第 41 図 第 2 トレンチ掘削状況

⑥鼓が滝遺跡第 24-6 次調査

位置：池田市古江町 1-49, 50, 51

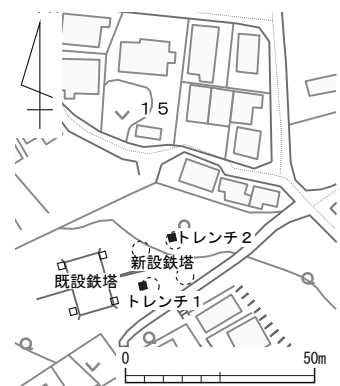
調査期間：令和 6 年 12 月 17 日

調査面積：8 m²

調査の概要

試掘調査は送電塔建築に先立ち実施した。

層序は、上から盛土 (120 cm)、灰白色・橙色粘土 (地山)。遺構・遺物は確認できなかった。



第 42 図 調査地位置図



第 43 図 第 1 トレンチ掘削状況



第 44 図 第 2 トレンチ掘削状況

⑦宮の前遺跡第 24-7 次調査

位置：池田市石橋 4-37-1

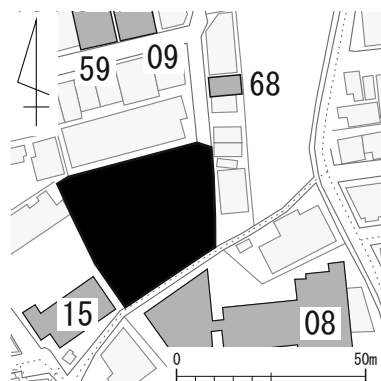
調査期間：令和 7 年 1 月 9 日

調査面積：4 m²

調査の概要

試掘調査は位置指定道路建築に先立ち実施した。

層序は、上から盛土 (110 cm)、暗青灰色粘質土 (20 cm)、暗オリーブ灰色粘質土 (10 cm)、暗青灰色粘質土、青灰色粘質土 (地山)。遺構・遺物は確認できなかった。



第 45 図 調査地位置図



第 46 図 トレンチ位置図



第 47 図 第 1 トレンチ掘削状況



第 48 図 第 2 トレンチ掘削状況

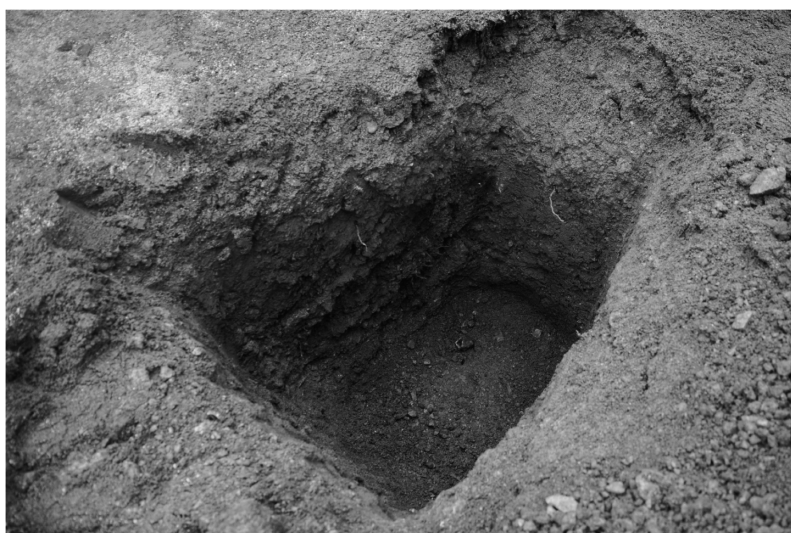
発掘調査抄録

ふりがな	いけだしまいどうぶんかざいはくちようさがいほう							
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報							
副書名	池田市文化財調査報告第51集							
シリーズ名	池田市文化財調査報告							
シリーズ番号	51							
編著者名	宇野真太郎・中西正和							
編集機関	池田市教育委員会							
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 TEL072-752-1111							
発行年月日	2025年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
五月山公園遺跡第3次調査	綾羽2地内（五月山公園内）	272043	—	34度49分47.40分	135度25分34.68秒	240326-240430	20㎡	遺構確認調査
五月山公園遺跡第5次調査	綾羽3地内（五月山公園内）	272044	—	34度49分49.57秒	135度25分30.29秒	241017-241018	17㎡	遺跡外試掘調査
池田城跡第87次調査	たていしちょう 建石町1978-12	272045	—	34度49分30.85秒	135度25分46.46秒	240703	4㎡	個人住宅建設のための試掘調査
神田北遺跡第27次調査	こうだ 神田1-1292-7	272046	—	34度48分45.85秒	135度25分42.02秒	240710	1㎡	分譲住宅建設のための試掘調査
神田北遺跡第28次調査	神田1-1251-2の一部	272047	—	34度48分42.83秒	135度25分45.90秒	241219	6㎡	共同住宅建設のための試掘調査
宇保遺跡第3次調査	うほちょう 宇保町177-4の一部	272048	—	34度48分54.84秒	135度25分51.29秒	240807	2㎡	分譲住宅建設のための試掘調査
宇保遺跡第4次調査	宇保町177-27の一部	272049	—	34度48分53.80秒	135度25分50.73秒	241029	2㎡	個人住宅建設のための試掘調査
豊島南遺跡第12次調査	とよし島なみ 豊島南2-243-10の一部	272050	—	34度47分56.19秒	135度25分2.84秒	240826	4㎡	個人住宅建設のための試掘調査
豊島南遺跡第13次調査	豊島南1-271-1の一部	272051	—	34度47分56.51秒	135度26分5.93秒	241105	6㎡	位置指定道路建設のための試掘調査
宮の前遺跡第24-1次調査	いしはし 石橋1-82-1-1の一部	272052	—	34度48分13.3秒	135度26分34.29秒	240415	6㎡	共同住宅建設のための試掘調査
池田城跡第24-2次調査	うえいけだ 上池田1638-16	272053	—	34度49分28.50秒	135度25分52.72秒	240628	20㎡	個人住宅建設のための試掘調査
神田北遺跡第24-3次調査	はちおうじ 八王寺2-1373-4の一部	272054	—	34度48分46.73秒	135度25分55.52秒	240628	20㎡	個人住宅建設のための試掘調査
豊島南遺跡第24-4次調査	豊島南2-241-5他	272055	—	34度47分54.89秒	135度26分1.72秒	241031	1㎡	事務所建設のための試掘調査
池田城跡第24-5次調査	上池田1-3352の一部、3352-1の一部	272056	—	34度49分26.01秒	135度25分51.94秒	241118	4㎡	共同住宅建設のための試掘調査
鼓が滝遺跡第24-6次調査	ふるえちよう 古江町1-49, 50, 51	272057	—	34度51分4.57秒	135度25分12.78秒	241217	8㎡	送電塔建設のための試掘調査
宮の前遺跡第24-7次調査	石橋4-37-1	272058	—	34度48分3.71秒	135度26分42.41秒	250109	4㎡	位置指定道路建設のための試掘調査
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
五月山公園遺跡第3次調査	集落跡	弥生		土坑	弥生土器			
五月山公園遺跡第5次調査	集落跡・散布地	弥生		土坑	弥生土器			
池田城跡第87次調査	城館跡・集落跡	縄文から中世		堀	—			
神田北遺跡第27次調査	集落跡	旧石器から中世		—	—			
神田北遺跡第28次調査	集落跡	旧石器から中世		—	須恵器			
宇保遺跡第3次調査	集落跡	旧石器・中世		—	—			
宇保遺跡第4次調査	集落跡	旧石器・中世		—	—			
豊島南遺跡第12次調査	集落跡・古墳	縄文から中世		—	瓦器・須恵器・土師器			
豊島南遺跡第13次調査	集落跡・古墳	縄文から中世		—	弥生土器・須恵器			
宮の前遺跡第24-1次調査	集落跡・古墳	旧石器から中世		—	土師器			
池田城跡第24-2次調査	城館跡・集落跡	縄文から中世		—	—			
神田北遺跡第24-3次調査	集落跡	旧石器から中世		—	—			
豊島南遺跡第24-4次調査	集落跡・古墳	旧石器から中世		—	—			
池田城跡第24-5次調査	城館跡・集落跡	縄文から中世		—	—			
鼓が滝遺跡第24-6次調査	集落跡	弥生		—	—			
宮の前遺跡第24-7次調査	集落跡・古墳	旧石器から中世		—	—			
要 約	五月山公園遺跡で弥生時代後期の甕等が出土、柱穴・土坑を確認する。							

a. 五月山公園遺跡
第3次調査第1トレンチ全景（北西から）



b. 五月山公園遺跡
第3次調査第5トレンチ全景（南東から）



c. 五月山公園遺跡
第3次調査第4トレンチ全景（南西から）





a. 五月山公園遺跡第 3 次調査第 2 トレンチ全景（北東から）



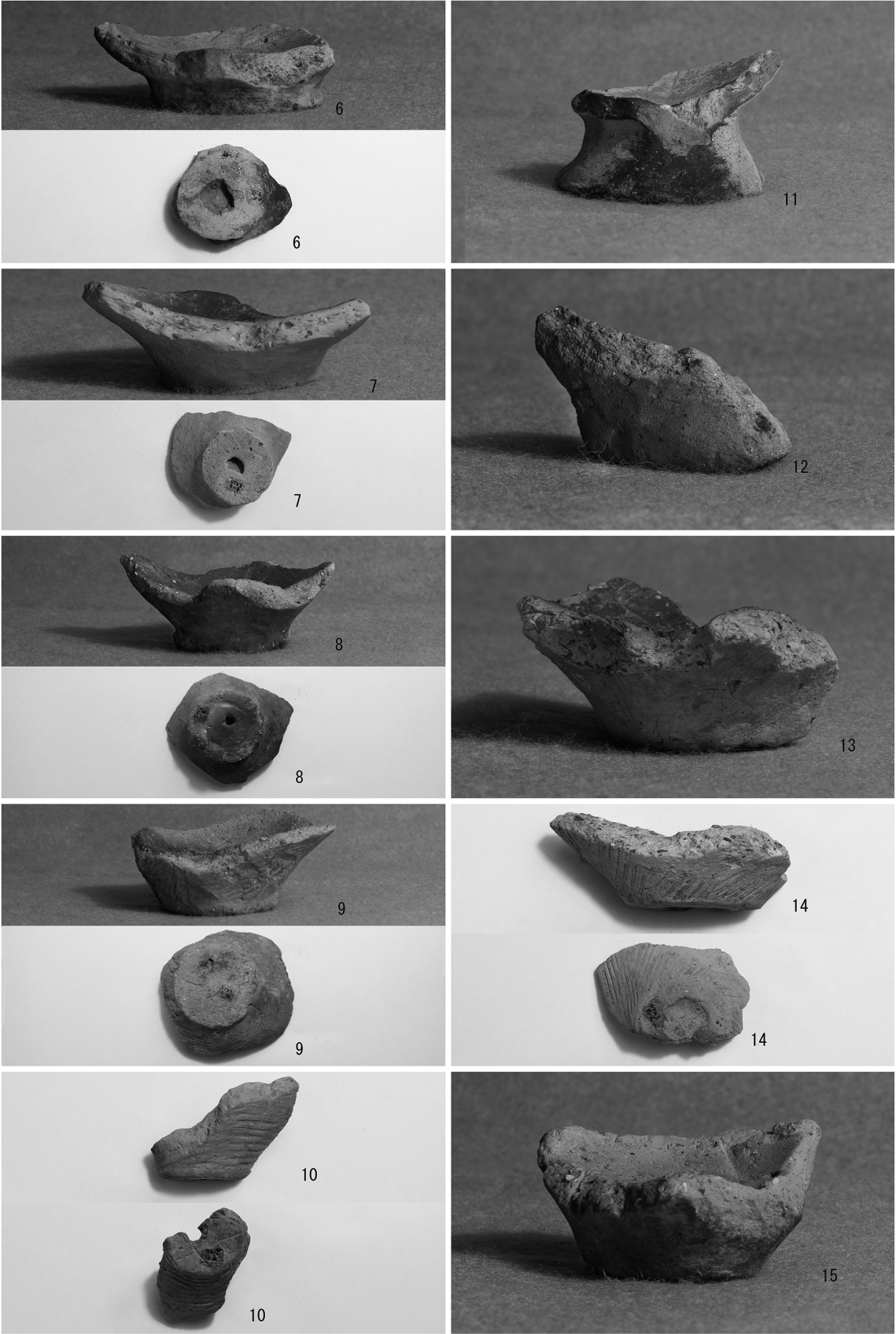
b. 五月山公園遺跡第 5 次調査（試掘）第 1 トレンチ土層堆積状況（北から）



a. 五月山公園遺跡出土遺物（1）



b. 五月山公園遺跡出土遺物（2）



五月山公園遺跡出土遺物（3）



a. 池田城跡第 87 次調査第 1 トレンチ全景（南東から）



b. 池田城跡第 87 次調査第 2 トレンチ全景（北東から）



a. 池田城跡第 87 次調査第 3 トレンチ全景（南東から）



b. 池田城跡第 87 次調査第 4 トレンチ全景（南東から）



a. 神田北遺跡第 28 次調査第 1 トレンチ土層堆積状況（北東から）



b. 神田北遺跡第 28 次調査第 2 トレンチ土層堆積状況（西から）



a. 宇保遺跡第 3 次調査土層堆積状況（北西から）



b. 宇保遺跡第 4 次調査トレンチ全景（南から）

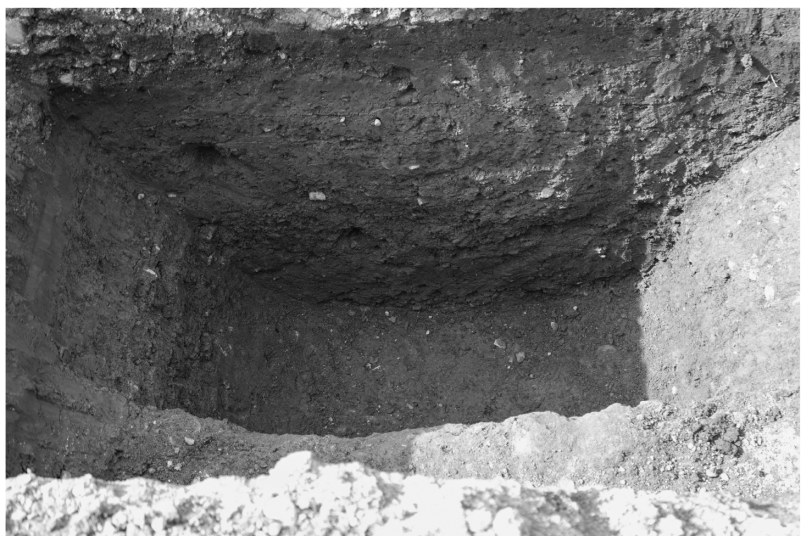
a. 豊島南遺跡第 12
次調査土層堆積状況
(南西から)



b. 豊島南遺跡第 13
次調査第 1 トレンチ
土層堆積状況 (南西
から)

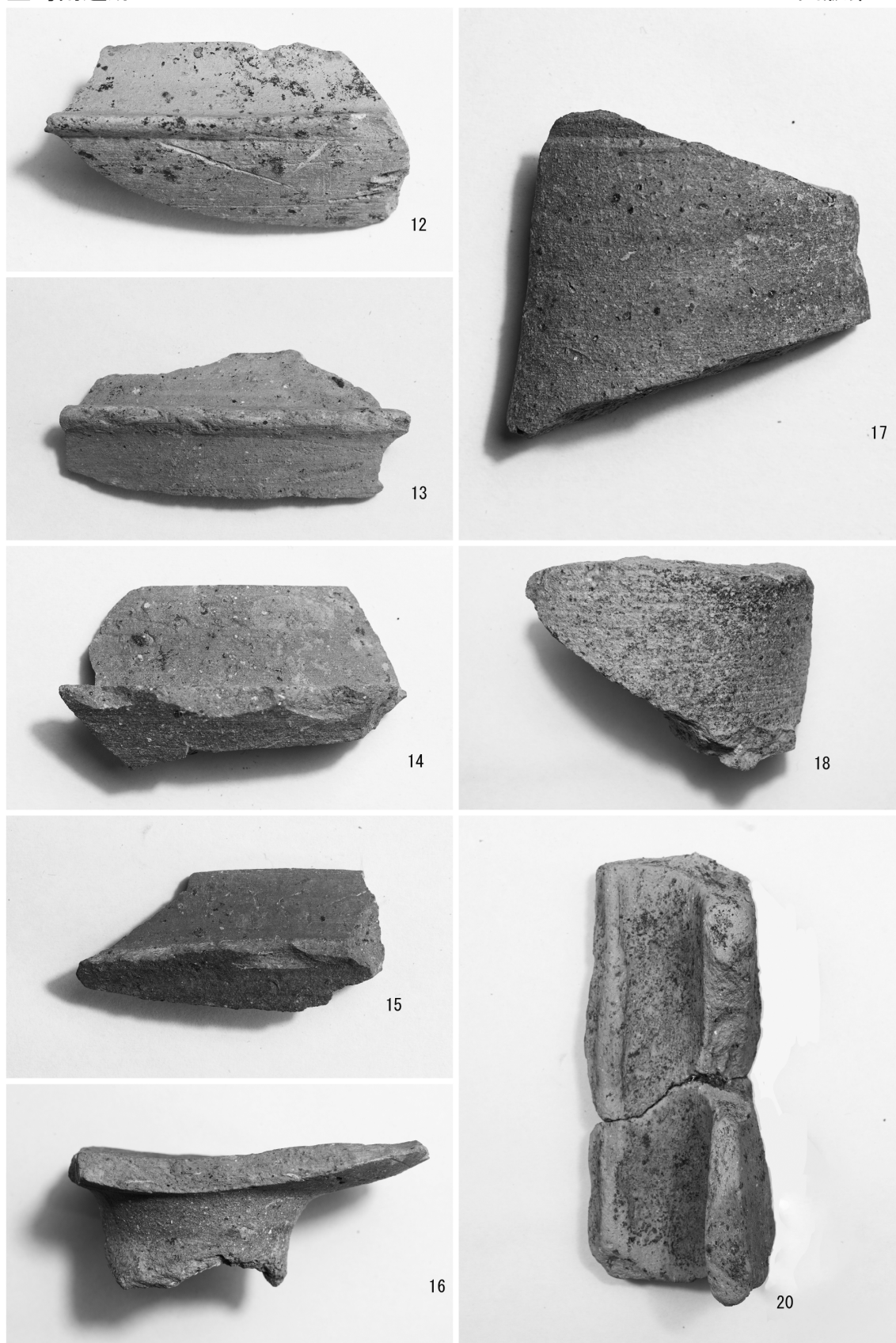


c. 豊島南遺跡第 13
次調査第 2 トレンチ
土層堆積状況 (北東
から)





豊島南遺跡出土遺物（1）



豊島南遺跡出土遺物（2）



a. 豊島南遺跡出土遺物（3）



b. 豊島南遺跡出土遺物（4）

池田市文化財調査報告第51集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2024年度

2025年3月

発行 池田市教育委員会

編集 池田市城南1丁目1番1号
社会教育課

印刷 タツミ印刷株式会社